NO.
DATE

常磐津流

113 回常磐津緑太夫

上三枚目の太夫、湯島に住む、明治の始め頃、既に老人なり、
勇みな人にて上るはたしとうまくなり

114 回四代目常磐津政太夫　初め寿喜登太夫

元治元年頃の歳旦本かつその名見申、慶応元年四代目政太夫となり(歳)
明治四年頃まで小文字の太夫の上三枚を語り居たるも、後脱走し、常磐屋
と称して鈍帳芝居を打ちいたり(志津太夫談)

115 回三代目常磐津志津太夫　初め登喜太夫

現在、文字時の弟子、バレン師、大阪今浜町三丁目の一番地に住む、
若男太夫の弟子、更に家元の内弟子に入り、大阪へ行くにつき
志津太夫と名乗る、明治三十九年頃

116 回二代目常磐津歌妻太夫（天保元―明治三十）　後、須賀太夫

二代目吾妻太夫の実弟にて田中宗吉と云う、始め新内にて鶴賀
弟子太夫と云う、後、二代目歌妻太夫と称し、美音なり
明治三十年十月十日五十九歳で歿す、法泉寺隆信士、深川浄心寺葬

117 回常磐津豊勢太夫

四谷に住む

118

□ 二代目常磐津都賀太夫　初め、千佐太夫

明治四、五年中三枚目に出た人、人名録に八丁堀仲町に住む、檜物屋の世話人、上手は五

119

□ 三代目常磐津都賀太夫　初め三代目小和登太夫　後に美砂（ミサゴ）太夫

芝口一丁目の砂利屋に生る。二代目松尾太夫の弟子となり其すえの名、三代目小和登太夫を襲ぎ、明治二十年頃に三代目都賀太夫を襲ぎ、六代目組太夫歿後の上三枚目となる。小音ではあるが上手であった由。

120

□ 二代目常磐津駒太夫（嘉永二―明治四四）　初め三雪太夫

清葉諏訪町の菓子屋に生る。始め君文字の弟子となり、後初代文字兵衛の弟子となり、声も大きく美音なり。駒形町四十三番地に住む。本名、伊藤三吉。明治四十四年七月十日歿、享年六十三才。寵愛受邦信士。中根岸に葬

121

□ 三代目常磐津三國太夫　初め、二代目逝太夫

堀越の番頭の子なり。文字兵衛の弟子。声は綺麗、ワキ語るまでゆく

122

□ 常磐津長尾太夫　初め三代目秀太夫

縫箔屋なり。欠伸横木横町三丁目に住む。文字助の弟子にてワキまでゆく声はよけれど上手はあまりうまくなし

NO.
DATE

123

□常磐津 杉太夫

大阪に住む 林中の弟子なり、三人の作に松花と云う三絃弾きなり

後国太夫となれり

124

□五代目常磐津組太夫

何も師なり、四代目組太夫の娘初代芝紅の妹へ養子に入り組太夫と名乗り

三枚目の控に出でしのみにて間もなく離縁となる

125

□六代目常磐津組太夫（弘化三―明治三十四）

初め豊志太夫 後光太夫

もと竹の皮を商いたり、美音にて三枚目のアヒ無類なり（三代得意有

無類の声にて殊に上手なり）本名下田金吉 始め和佐常の弟子となり

更に今蔵に就きて学び豊志太夫となり、次に五代目組太夫となり

六代目小文字の離縁となり林中となりて、その方へ行き、更に光太夫と改め

ただ明治三十四年九月歌舞伎座鳴神上演中出勤中病にて倒る 四十六才

126

□二代目常磐津國太夫（―明治三十九）

初め二代目志津太夫、三代目吾妻太夫

生れは神田にて始め仕立屋を業とせり、声も大きく美音なり

江戸っ子肌にて何事にても日本一と位名のつく程の自慢家なり、神田塗物

町に住む、明治三十九年十月十日、法名善月院浄音良性信士、小石川

龍泉寺へ葬る 本名 杉山忠次郎

127

□常磐津八重太夫

すしやなり、上三枚目に行はず、拵にて終る。

128

□三代目常磐津都太夫（安政元―大正三）初め小菊太夫、次、和佐吉、次、和佐男、次、若男太夫

古家人篠原正次の子なり、人才に初代和佐太夫の内に入り小菊太夫と云いしが明治三年（十七才）和佐吉と改め更に同九年和佐男太夫と改め更に若男太夫となれり。晩年都太夫を襲ぐ。大正二年三月十二日六十八才にて歿す。四谷西念寺に葬る。法名通譽達慈信士、本名天野藤吉。大劇場へは出ず、麻布森元住へ出勤せしなり。（口伝）声はよくないが上手なるはうまかりし

129

□常磐津浪花太夫　初め杉戸太夫

風月堂のカステラ職人なりしが道楽にて太夫となれり、声量乏しく美音にして情味三枚目なりしが、後主人より干渉を受けて太夫を廃業せり。（弥生太夫談）

130

□三代目常磐津和佐太夫（天保六―大正三）初め初代小和佐太夫　後魯仙

東京の芝居には出ず、横浜に住み芝居出勤せり。初代和佐太夫の妻せの弟なり。初代和佐太夫の弟子にて初名小和佐太夫、弘化元十一月十日にて名をとる。大正三年八月四日死歿、享年六十八才、代々木新町正春寺に葬る。釋博言信士

NO.
DATE

131

□常磐津若樹太夫　初め和事太夫

元吉原人にて芝居(は)あず、和歌太夫の身うち後代目住む

世話人をなし本名金平と云う　和佐太夫の妻が代子の縁なり

132

□常磐津春太夫　後、新派春太夫

魚河岸の塩物屋の息子、提灯屋をなす

俄治田文字兵衛の弟子なり

133

□五代目常磐津和歌太夫　初め三代目小和佐太夫、次、菊太夫

本名萩原熊次郎と云い四谷に生る　初代和佐太夫の妹の子なり

明治三十三年菊太夫となり、同三十八年二月十日和歌太夫となる

吉ノ悪しけれど上るようにうまし　ツキ逆行

134

□〇代目常磐津政太夫　初め小政太夫

政太夫となる家元の番頭をなすも早死す